

○やっ来てられたイエス・キリスト：二つの姿

1. _____ (29-31)

▶「見よ」

※ヨハネ 19:14-15

「その日は過越の備え日で、時は第六時ごろであった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「さあ(見よ)、あなたがたの王です。」彼らは激しく叫んだ。「除け。除け。十字架につけろ。」…」

1) 創世記：アダムとエバ

※創世記 2:15-17

「神である主は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。神である主は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

※創世記 4:1

「人は、その妻エバを知った。彼女はみごもってカインを産み、「私は、主によってひとりの男子を得た」と言った。」

※創世記 3:21

「神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。」

2) 創世記：アブラハムとイサク

※創世記 22:1-2

「これらの出来事後、神はアブラハムを試練に会わせられた。神は彼に、「アブラハムよ」と呼びかけられると、彼は、「はい。ここにおります」と答えた。神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」

※創世記 22:6-8

「アブラハムは全焼のいけにえのためのたきぎを取り、それをその子イサクに負わせ、火と刀とを自分の手に取り、ふたりはいっしょに進んで行った。イサクは父アブラハムに話しかけて言った。「お父さん。」すると彼は、「何だ。イサク」と答えた。イサクは尋ねた。「火とたきぎはありますが、全焼のいけにえのための羊は、どこにあるのですか。」アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」こうしてふたりはいっしょに歩き続けた。」

※創世記 22:11-14

「そのとき、主の使いが天から彼を呼び、「アブラハム。アブラハム」と仰せられた。彼は答えた。「はい。ここにおります。」御使いは仰せられた。「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」アブラハムが目を上げて見ると、見よ、角をやぶにひっかけている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた。そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、「主の山の上には備えがある」と言い伝えられている。」

3) 出エジプト記：イスラエルの民

※出エジプト記 12:3-7

「イスラエルの全会衆に告げて言え。この月の十日に、おのおのその父祖の家ごとに、羊一頭を、すなわち、家族ごとに羊一頭を用意しなさい。もし家族が羊一頭の分より少ないなら、その人はその家のすぐ隣の人と、人数に応じて一頭を取り、めいめいが食べる分量に応じて、その羊を分けなければならない。あなたがたの羊は傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。あなたがたはこの月の十四日までそれをよく見守る。そしてイスラエルの民の全集会は集まって、夕暮れにそれをほふり、その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と、かもいに、それをつける。」

※出エジプト記 12:12-13

「その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人をはじめ、家畜に至るまで、エジプトの地のすべての初子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下そう。わたしは主である。あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない。」

※ヘブル 10:4

「雄牛とやぎの血は、罪を除くことができません。」

※1 コリント 5:7

「私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです。」

※1 ペテロ 1:18-19

「ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」

※ローマ 8:31-32

「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。」

「私は非常に多くの試練をくぐり抜けてきましたが、その中には並大抵のものでないものもありました。それでも私は神にあって喜んでいました。1838年から1848年までの約10年間、私は困難に次ぐ困難を経験しました。しかし、いつも神の助けがあり、全てが父なる神から来ていることを知っていたからこそ、最も辛い日であろうといても喜ぶことができました。試練や苦難はあなたにも降りかかるかもしれません。重い試練、深い苦悩さえ降りかかるかもしれません。しかし、もしあなたが「これは私の父、私の愛する父からのもの。私のために御子を惜しまずに与えてくださった方からのもの。全てを益としてくださる方からのもの。御子を惜しみなく与えてくださった方が、私に全てのものを惜しみなく与えてくださる。だから、この試練さえ私にとって良いものの、そうでなければ、私に試練が降りかかるのを神が許されないはずだ」と口にすることができるなら、そういった試練を乗り越えることができます。たとえ試練の真っ只中にあっても、冷静さや平安、そして聖なる天上の喜びを持つことができます。このようにして、私たちは試練に立ち向かうことができるのです。」(ジョージ・ミュラー)

2. _____ (32-34)

※ヨハネ 20:31

「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」